県退教協だより NO・89

長崎県退職教職員等連絡協議会
長崎市筑後町二―一　教育文化会館内
☎〇九五―八二二―五一九五

２０２０年８月、被爆75年の節目を迎えた。そこで退教協だより第89号ではトップ面に特集を組み、改めて75年を考えてみた。

特集　被爆75年の節目に見る ある“混乱”

山川　剛

新型コロナのパンデミック（世界的大流行）に見舞われている２０２０年という年は、子どもたちの歴史教科書に特筆される年になるに違いない。その波乱の年の幕開けを象徴するかのように、１月早々、終末時計の針は真夜中の人類滅亡まで「残り１００秒」に進められた。終末時計は米国の原子力科学者たちが、１９４７年に始めたもので残り１００秒は最短である。最近の核状況と気候変動の脅威が増大したための重大な警告であった。

長崎原爆資料館の子ども向けのホームページ「キッズ平和ながさき」をたまたま見ていたら、「１９４５年５月にドイツが降伏したので、アメリカは原爆を日本に投下することにしました」が目に留まった。おいおい、違うやろ、と思わずつぶやいた。ドイツがまだバリバリ戦っていた１９４４年９月に当時の米大統領ルーズベルトと英首相チャーチルが、「原爆は日本（人）に対して使用する」ことで意見が一致していたからである。秘密会談がニューヨーク州のハイドパークで行われたので「ハイドパーク協定」とも呼ばれる。大人にならともかく、子どもには正しい知識を提供すべきだろう。

ところで、１９４５年８月９日の「午前11時２分は何の時刻ですか？」と問われたらあなたはどう答えるだろうか。長崎の子どもたちは「長崎に投下された原爆がさく裂した時刻です」と答えるだろう。それは、長崎市が発行している平和学習テキストの『平和ナガサキ（小学生版）』に「～原子爆弾が、午前11時２分、長崎市北部（現在の松山町交差点付近）上空でさく裂しました」と説明されているからである。つまり長崎市の見解は、「午前11時２分は、原爆の炸裂時刻」である。

ところが、８月９日前後のマスコミ報道には、「長崎原爆が投下された11時２分を合図に～」などという表記が散見されたのである。これは今年に限ったことではなく、いわば一種の慣習になっていたように見える。これに対して長崎市がクレームをつけたという話は聞かない。無関心なのか黙認なのか分からない。

では、８月６日の広島原爆の「午前８時15分は何の時刻ですか」と問われたらあなたはどう答えるだろう。「そりゃあ広島原爆の爆発時刻たい」と答えたら、長崎の子どもに叱られる。長崎の子どもたちは知っている。先の平和学習テキストに「１９４５（昭和20）年８月６日８時15分に投下」と明記されているからだ。「11時２分は炸裂」、「８時15分は投下」なのだ。（ただ、聞くところによると、広島平和記念資料館の展示資料の説明に午前８時15分は「さく裂」になっているとのこと。だから、ややこしい）

さて、そこで私は長崎の「平和宣言」に当たってみた。初めての平和宣言は１９４８年で、「午前11時２分」の初出は１９５１年だ。ただ、「午前

11時2分」がこれまでの宣言文中に必ず使われたわけではなかった。使われたのは45回では27回である。「炸裂」という用語は初出は1946年。この前後は「炸裂」と読み取れる表現が多い。

「午前11時2分投下」と明確に投下時刻に記されている。平和宣言文案起草委員会はどちらも容認という立場なのだろうか。

節目の年の大事な役割は、こうした“混乱”やこれまでの様々な課題を原点に立ち戻って考察し整理してみることにあるのではないだろうか。「午前11時2分は何の時刻か」といった初歩的な、基本的なことで子どもたちを混乱させてはならないと思うのである。

二冊の「写真集長崎の証言」

「写真集長崎の証言」は、ホモサピエンス（叡智の人）が、原子爆弾という史上最強の武器を使って何万何十万のホモサピエンスを虫けらのように殺害したという非道の証拠を写真によって世界中に知らせ、後世に伝えるというすぐれた写真集だ。手元に二冊ある。一冊は1972年発行の「写真集長崎の証言再版」、もう一冊はつい先月発行された「写真集長崎の証言」だ。後者には写真の説明文の英語訳がついている。世界の多くの人に届けたい（文／青木英夫）

地域代表者会報告

今年は、開催の総代表者会は、活動の流域代表者会は、地域代表者会は会長が議長をすることになっている。

部会員の高齢者の活動体制が自治会館で迷惑者の工夫や参加者の数を配布した。「自治会長に会員の立場に立った会議の案内書が届いた。

冒頭、会長から、「6月26日に開催された県退職者会の呼びかけ文の中に、「炸裂」という言葉が使われていたのは、1946年。この前後は「炸裂」と読み取れる表現が使われ、「炸裂」という用語は

支部活動報告

西彼支部　田中義彦

今年（２０２０年）４月８日、西彼退教協の監査を実施しました。私は監査役の一人です。監査の後、役員４人の方と一緒に「西彼退教協第39定期総会」の冊子作りを２時間あまりかけてしました。そして５月15日に新マスクでいきたい県教育文化会館（実際はマンション２階のフロアー）で退教協の仲間との再会を楽しみにしていました。ところが、皆様ご存じのように新型コロナウイルス「蔓延で総会は中止となりました。止にしてもいいのあるかもしれません。「懇親会」も、もちろん中止にしました。

☆協同対策がくめません

☆ご苦労様です。組織・財政・活動のすべてを考えると相当無理をしているのがわかります。「長西退教協」も考えてみては

☆新型コロナウイルス、大変な状況ですね。役員の方々、お世話大変でありがとう。一泊旅行は一任します。

以上、最近の西彼退教協の活動です。

続けて長崎地区高問連の近況です。昨年の11月から西彼退教協で会長と事務局長を拝命しました。11月19日に「総会」開催。今年３月16日、コロナ禍心配の中、「囲碁大会」を実施。ぎりぎりまで悩みましたが「メーデー」不参加を決定。

焼酎のあお～湯！割り・水割りを飲みたい！チャンスは高齢になるとこんな悪い結果では滅多にないのだから」と冷たい生ビール、議案書のなかなかなか

コロナ禍に思う

井上敏彦

新型コロナ感染症の拡大が止まらない。世界の死者が８００万人を超えた。日本の感染者は７月１０日２０００人に迫る勢いで、１日の感染者が８００人を超えた。「旅に出ろ！キャンペーン」とこの前まで言っていた政府が、急に「感染者が増えてきたから、国民よ厳に慎しむ。」と言い出した。

世界のコロナ関連の統計を集計しているワールドメーターによると、百万人あたりの検査件数は、日本は世界２１５ヶ国中で１５９位、G７では最低、G２０でもワースト２位だ。１日あたりの検査能力でも、日本が最大３・２万件であるのに対し、中国は３８０万件、アメリカは５０万件、ドイツは１８万件、フランスは１０万件にも上る。桁違いだ。

ここには関係者の感染研究所、検査会社、保健所の指示がなければ、検査できず、医療従事者が足りない。

ワクチンの開発は、ガバナンス研究所、検査会社、保健所の指示がなければ、検査できず、医療従事者が足りない。

これには関係者の感染研究所、検査会社、保健所の指示がなければ、検査できず、医療従事者が足りない。

理事長の上昌広氏は、「現行の感染症法は、厚労省、国立感染症研究所、国民間の医療機関や検査会社、保健所の指示がなければ、検査できず、医療従事者が足りない。

○　今回も『喉元過ぎれば』試す総理（ひと）。

コロナ禍を招いたのは誰だ。

○　責任に拒み続け流れ臨む野党は、「国会で開催の要求を拒み続け流れ臨む野党は、「国会で開催の要求を拒み続け流れ臨む野党は、「国会で開催の要求を